

生涯にわたる歯周病と全身の関係

講演要旨



日本大学松戸歯学部 歯周治療学講座 教授 **小方 頼昌**

歯周病は、歯と歯肉の間の歯周ポケットに沈着するプラーク細菌による炎症性疾患です。サイレントディゼーズと呼ばれ、重症化するまで自覚症状が少なく、抜歯の主原因が歯周病です。細菌、環境および患者さん自身の体質を含めた宿主因子の影響で歯周病が発症・進行することから、それぞれの因子を減少させることが治療につながります。全身疾患と歯周病の関係が数多く報告されていますが、その中で最も研究がすすんでいるのが糖尿病で、その他、脳および心臓血管疾患、慢性腎臓病、低体重児出産、早産、骨粗鬆症、呼吸器疾患などが報告されています。糖尿病と歯周病は生活習慣病として知られていますが、糖尿病の

患者さんでは歯周病を高頻度で発症するため、歯周病は糖尿病の第6番目の合併症とされ、炎症性疾患である歯周病の治療によって糖尿病の患者さんの血糖値の改善が認められることから、糖尿病と歯周病は双方向に関係することが示されています。

今回、歯周病はどのような病気であるか、病因および歯周病検査について解説し、歯周病の全身の健康への影響と糖尿病と歯周病の関係を、症例をまじえて解説したいと思います。おいしい食事をすることは人生の楽しみですが、歯周病が進むと満足な食事ができません。生涯にわたり健康な生活を送れるように、本講演が歯周病の予防も含めて皆様のお役に立てれば幸いです。

略歴

1984年	日本大学松戸歯学部卒業
1988年	東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)
1988年	日本大学松戸歯学部 歯周病学講座助手
1991年	日本大学松戸歯学部 歯周病学講座講師
1992~1993年	カナダトロント大学歯学部 歯周生理学部門研究員
2001年	日本大学松戸歯学部 歯周病学講座教授
2005年	日本大学松戸歯学部 歯周治療学講座教授(現在に至る)
2020年~2023年	日本大学松戸歯学部長
2021年~2023年	日本歯周病学会理事長

専門医・指導医・学会活動

- 日本歯周病学会 歯周病専門医(指導医)
- 日本歯科保存学会
歯科保存治療専門医(指導医)
- 日本臨床歯周病学会
歯周インプラント指導医